

南アフリカ為替週報

2023年10月12日 | みずほ銀行欧州資金部

<過去1週間の動き> (10月5日～10月11日)

USD/ZAR: 18.7873～19.6399
ZAR/JPY: 7.59～7.94(参照値)

過去1週間の南ア・ランド相場は対ドルで3%超の大幅反発。この間、外部環境は大きく変動しており、(1)イスラエルに対するパレスチナのイスラム武装組織ハマスによる大規模攻撃とそれに伴う原油価格の急騰、(2)FRBの高官発言を受けた米金利の大幅低下があった。それぞれ、南アランドに対するインプリケーションは異なる。(1)南アフリカは資源国だが原油は輸入に依存しており、国際的な原油価格の上昇は、同国の貿易収支の悪化につながるから通貨安要因である。一方、(2)米金利の大幅低下は、金利面での南アランドのキャリートレードの魅力を高めることから、通貨高要因となる。過去1週間の動きを見る限り、市場は、米金利の大幅低下に伴うリスク資産の堅調をより材料視しているだろう。また、(3)10月10日には、中国政府が景気刺激策を強化するために、インフラ投資を賄うため少なくとも1兆元(約20兆3,600億円)の国債を新たに発行し、2023年の財政赤字増大を容認する方向で検討している、という匿名の関係者の発言をブルームバーグが報じたことも、南アランドのサポート材料となった可能性がある。南アにとって中国は最大の貿易相手国であり、かつ中国の動向が南アの主要輸出品目である工業用金属の価格に及ぼす影響は大きいからだ。もっとも、この報道の内容が仮に事実だとすれば、中国政府が従来の政策の誤りを暗に認めたことになることを考慮すれば、実現の可能性を慎重に見極める必要があるだろう。

国内要因で、取り立てて南アランドの変動につながった材料は見当たらないが、ここでは、10月10日にIMFが「世界経済見通し」の最新版を公表し、その中で南アの経済成長見通しを大幅に上方修正したことについて取り上げたい。IMFは2023年の実質GDP成長率の見通しを前年比+0.9%と、7月時点の同+0.3%から引き上げた。2024年の成長見通しも前年比+1.8%と、7月時点の同+1.7%から引き上げている。IMFは比較的大きな上方修正となった2023年の予測値の改定について、その理由を2023年後半以降の電力不足の深刻度が、従来想定していたほどのものでは無かったことを理由に挙げている。もっとも、IMFは南ア経済の構造的な課題、とりわけ30%を超える失業率や、電力不足、教育、国営企業の経営問題を指摘しており、より強い経済成長や財政の健全化のためには改革に取り組む必要があるとしている。

<過去1週間に発表された主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	予想*	実績	前回
10/5	12:00	電力生産(前年比)	8月		-6.4%	-3.4%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

<向こう1週間の見通し> (10月12日～10月18日)

USD/ZAR: 18.60～20.00
ZAR/JPY: 7.10～8.20

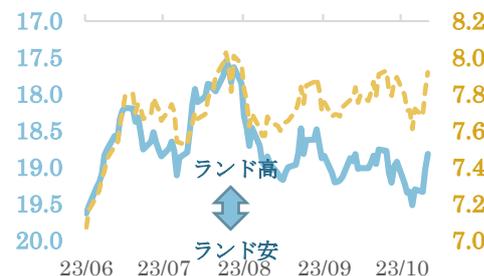
今後1週間のランド相場は引き続き、外部環境の動向に敏感な展開が続くだろう。中東情勢の緊迫化に伴う原油価格の上昇リスク、米金利の動向、さらに中国の景気対策への期待、と南アを取り巻く環境が大きく変動する可能性があるためだ。もっとも、どちらかと言えばランドには反落リスクが高いと見ている。このところの南アランドの最大のサポート要因となったのは米長期金利の大幅な低下だと見られるが、米利上げ停止観測だけでは一段の債券ラリー(債券価格上昇、金利低下)には力不足だと見られるためだ。結局のところ、高止まりするインフレを背景に、高水準の金利がより長期間継続するシナリオが意識されるように思われる。また、中東情勢の緊迫化に伴う原油価格の上昇も、本来、インフレ期待を押し上げ、米長期金利の上昇要因となる。総じて、米金利低下によって促された足元のリスク資産のラリーの持続性は懐疑的に見る必要があるように思われる。

<向こう1週間に発表予定の主要経済指標等>

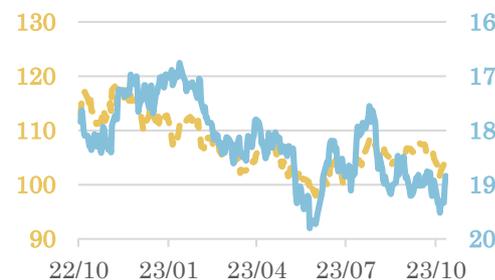
月日	GMT	指標	期間	予想*	実績	前回
10/12	12:00	工業生産(前年比)	8月	2.3%		2.3%
10/18	12:00	小売売上高(前年比)	8月			0%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

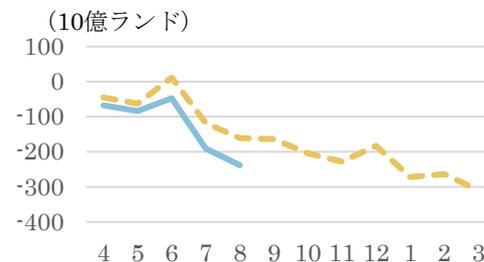
南ア・ランドの推移

実線:対ドルレート(左軸、逆目盛)
点線:対円レート(右軸)

資源価格と南アランド相場

実線:南アランド対ドル相場(右軸、逆目盛)
点線:ブルームバーグコモディティ指数(左軸)

南アフリカ財政収支 累計値

実線:2022/23年度
点線:2021/22年度

※南アフリカの財政年度は4月～3月

(資料:SARB、南アフリカ統計局、ブルームバーグ)

<文責>

欧州資金部

シニア為替ストラテジスト

中島 将行

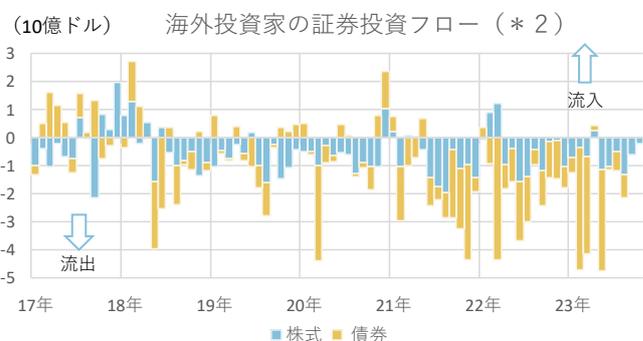
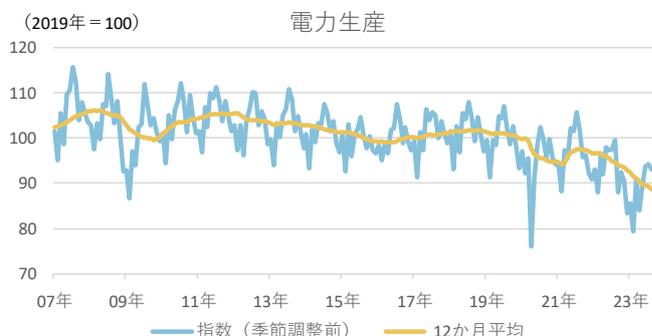
masayuki.nakajima@mhcb.co.uk

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

南アフリカ為替週報

2023年10月12日 | みずほ銀行欧州資金部

＜主要経済指標の推移＞



- * 1 : BERサーベイは南アフリカ経済調査局 (Bureau for Economic Research) による四半期ごとの調査。経済アナリストや企業などが調査対象となっている。ブレイクイーブンインフレ率は物価連動国債から算出される、市場が推測する期待インフレ率。
- * 2 : 月次データ。ただし、2023年10月は1日から10日までの累計値。

(資料：南アフリカ準備銀行/南アフリカ統計局/南アフリカ経済調査局/ヨハネスブルク証券取引所/ブルームバーグ/みずほ銀行)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。